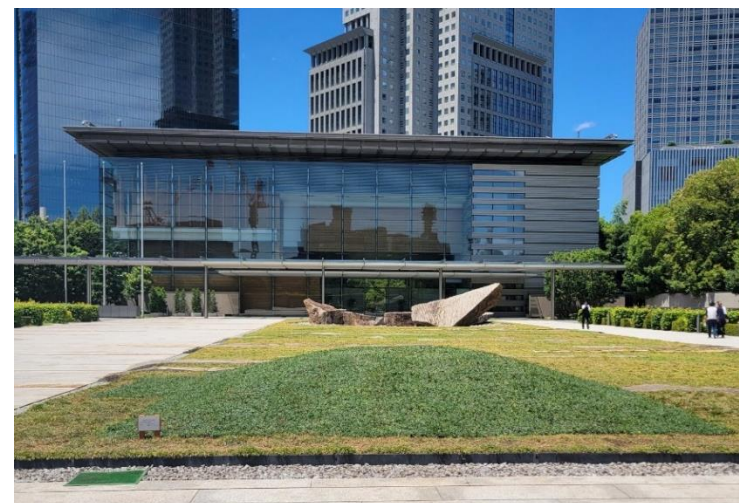

復興再生利用の取組状況など

総理大臣官邸での復興再生利用

■総理大臣官邸にて、基準策定後初の復興再生利用を実施。

施工後の様子

- 施工日：2025年7月19日、20日
- 施工面積：7m×7m
- 復興再生土：2m×2m×60cm 約2m³
- 復興再生土の飛散流出防止措置：覆土20cm
- 復興再生利用の実施個所であることを表示



復興再生利用断面図



霞が関の中央官庁の花壇等への復興再生利用概要

中央合同庁舎第3号館
正門駐車場花壇
(国土交通省、
海上保安庁)



中央合同庁舎第6号館
北側駐車場の
花壇
(法務省、
検察庁他)



外務省 南庁舎入口の盛土



中央合同庁舎第2号館
中庭花壇
(総務省、
警察庁、
消防庁他)



中央合同庁舎第8号館
正面玄関
駐車場花壇
(内閣官房、
内閣府)



中央合同庁舎第1号館
正面玄関前花壇
(農林水産省、
林野庁、水産庁)



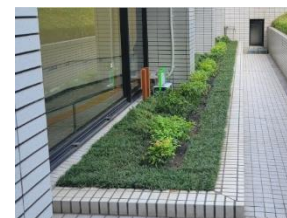
中央合同庁舎第4号館
駐車場前
花壇
(復興庁、
財務省、
内閣府他)



経済産業省総合庁舎
中庭駐車場
前花壇



中央合同庁舎第5号館
サンク
ガーデン
(環境省、
厚生労働省)



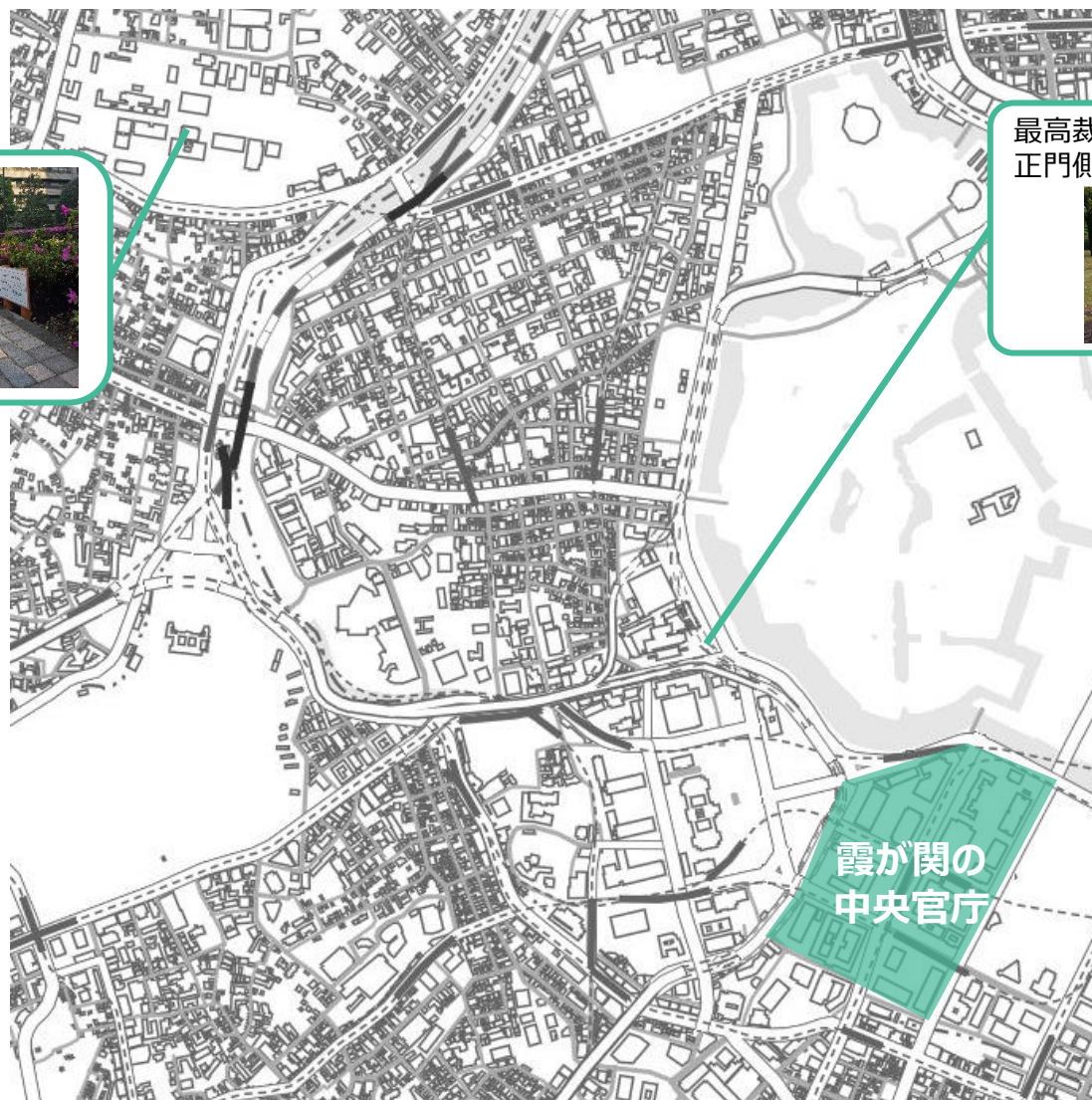
※2025年9～10月施工
※地理院地図Vector「白地図」を加工して作成

霞が関周辺の庁舎の花壇等への復興再生利用概要

防衛省
市ヶ谷地区
厚生棟前
植樹帯



最高裁判所
正門側緑地帯

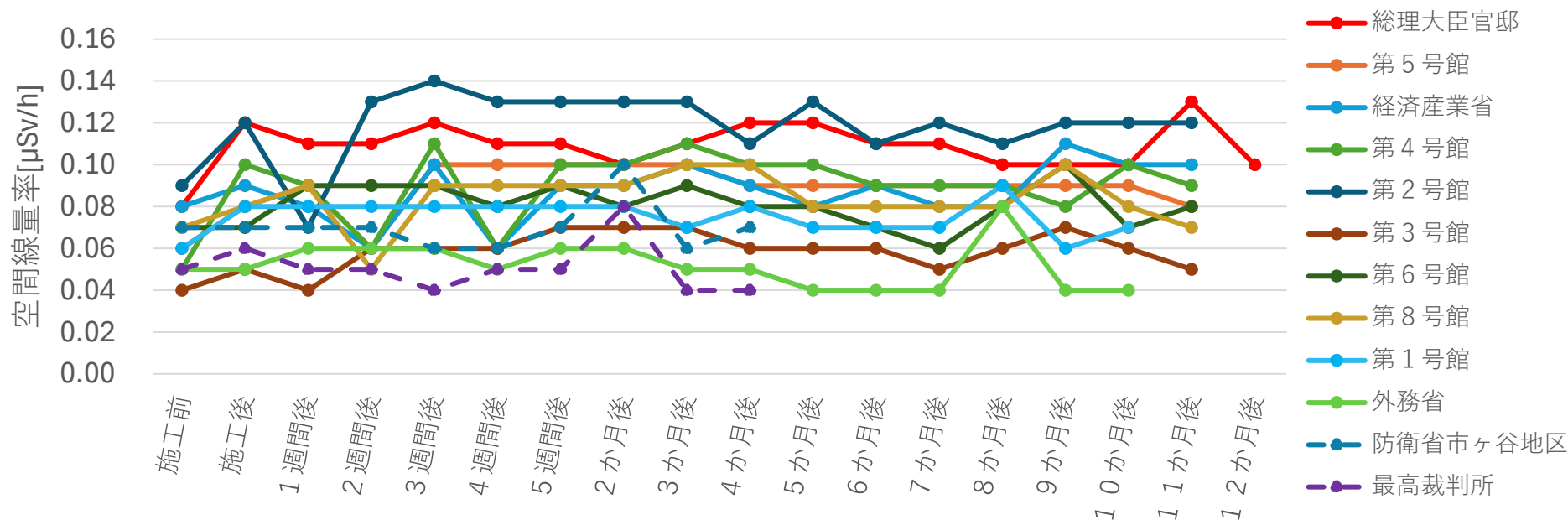


霞が関の
中央官庁

※2026年4月施工
※地理院地図Vector「白地図」を加工して作成

空間線量率の測定状況

- ・空間線量率の測定（モニタリング）は、工事後1か月間は週1回、その後1年間は月1回測定。
- ・施工地点における維持管理時の測定結果は、同一地点の施工前の結果に対し、天候等による変動もあり、 $-0.02 \sim +0.06 \mu\text{Sv/h}$ 変化。
- ・施工地点におけるこれまでの維持管理時の測定結果を平均すると、同一地点の施工前の結果に対し、 $0 \sim +0.04 \mu\text{Sv/h}$ であり、人体への影響を無視できるレベルである。



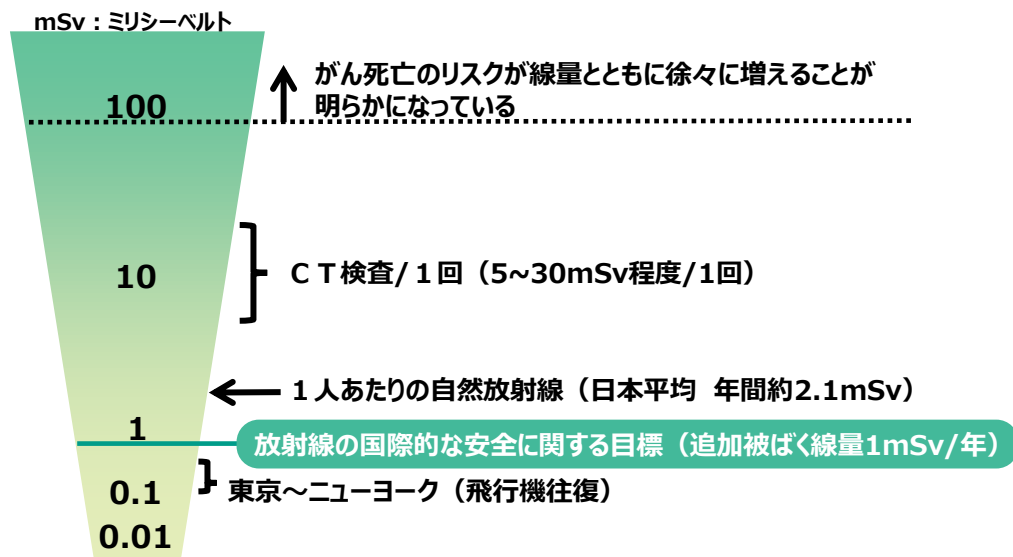
復興再生利用の安全性

- 復興再生利用に当たっては、放射線の国際的な安全に関する目標(追加被ばく線量1mSv/年)[※]を踏まえ、**年間追加被ばく線量が1mSv以下**（これを満たす復興再生土の放射能濃度として**8,000Bq/kg以下**）となるよう基準を定めており、安全が確保されている。

※国際放射線防護委員会（ICRP）2007年勧告

- ・2024年9月、除去土壌の再生利用等に関する国際原子力機関（IAEA）専門家会合の最終報告書が公表。報告書では、**復興再生利用等に係る環境省の取組が同機関の安全基準に合致する**ことが示された。
- ・また、2025年2月、放射線審議会から**復興再生利用の基準案は妥当である**との答申が出された。
- ・これらを踏まえ、2025年3月、環境省令及び告示において、復興再生利用に係る上記の基準を策定。

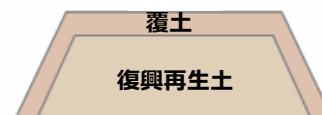
被ばく線量の比較



復興再生利用による被ばく



＜復興再生利用の施工のイメージ＞



※飛散・流出防止のための覆いとなる覆土により復興再生土からの放射線は90%以上の遮へいが可能

地方支分部局の花壇等への復興再生利用概要

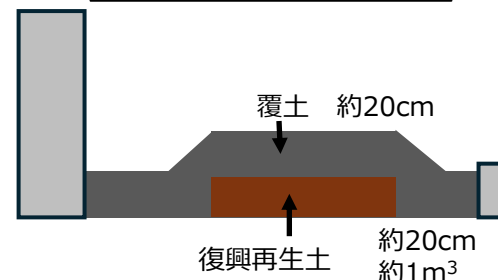


※国土地理院「白地図」を加工して作成

仙台合同庁舎B棟 北側駐輪場前植栽帯



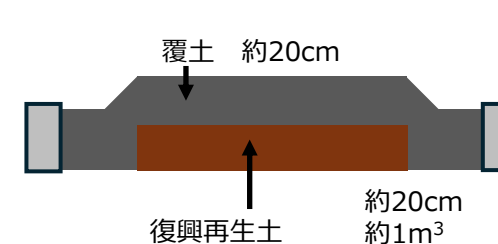
復興再生利用（イメージ図）



さいたま新都心合同庁舎1号館 車寄せ前花壇



復興再生利用（イメージ図）



※施工の結果、位置・形状及び寸法に変更が生じる可能性がある

※他の地方支分部局等における利用も順次実施